

Q14. 新型コロナウイルス感染症拡大前との外出状況の違いなど

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前後の外出状況の違いや、収束した後の公共交通の利用を促進策について回答をいただいた。

Q14-1. 外出の増減

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比べ、公共交通の利用頻度は「③変わらない」が38.9%と最も多く、続いて「①減った」が24.3%となっている。

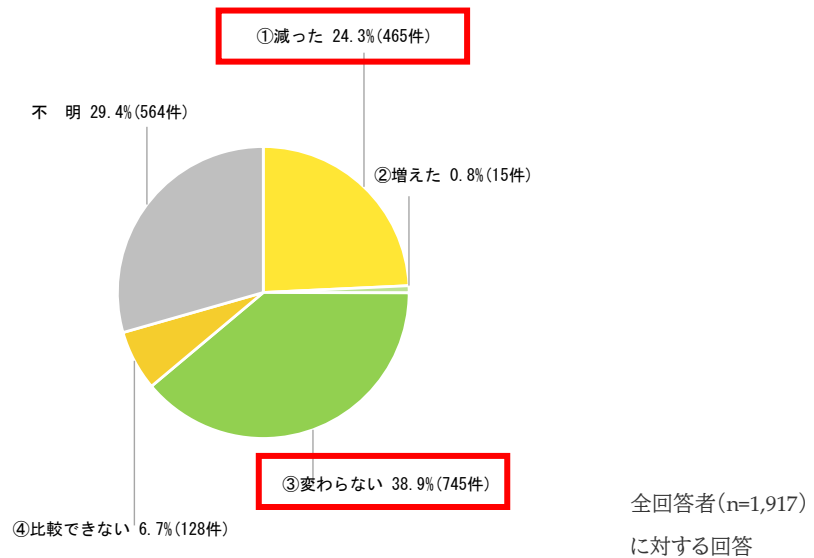
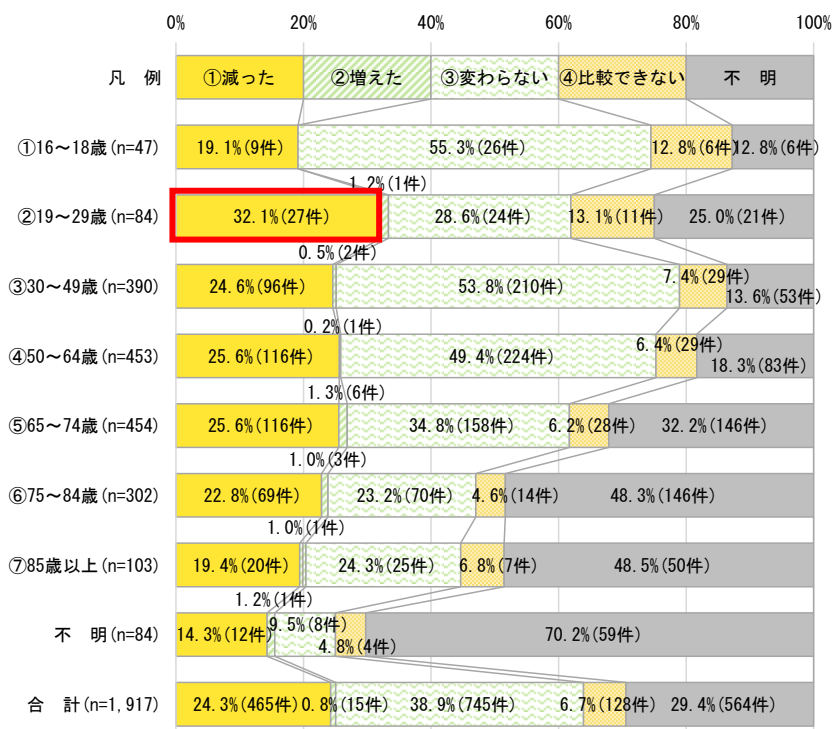


図 1-67 Q14-1.感染症拡大前と比べた公共交通の利用頻度

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると「②19～29歳」において他の年齢層よりも「①減った」が多い。



全回答者(n=1,917)に対する回答

図 1-68 Q4.年齢×Q14-1.感染症拡大前と比べた公共交通の利用頻度

Q14-2. 公共交通の利用が減った要因

利用頻度が減った方は「①外出そのものが減った」が77.4%と最も多い。「②自家用車(自分で運転)」「③自家用車(家族等の送迎)」は合計で17.0%となっている。

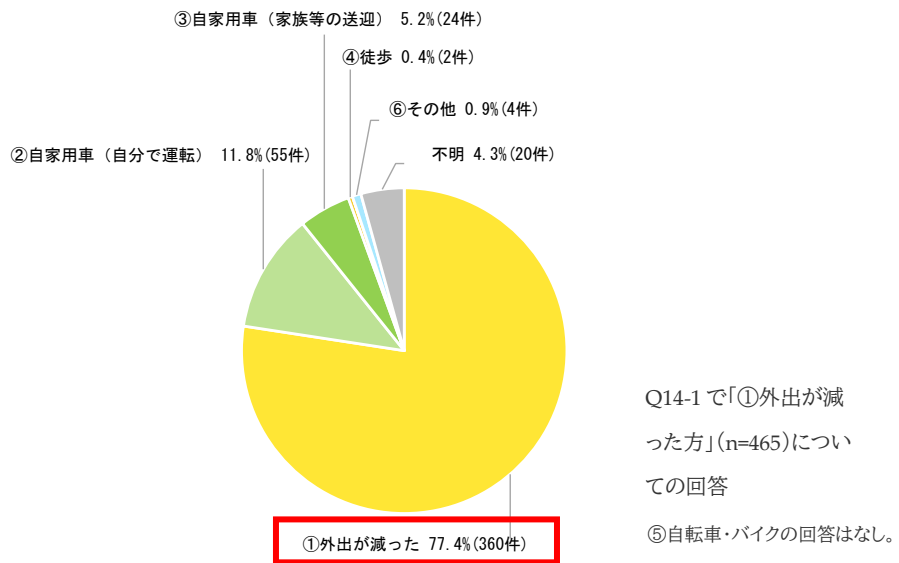
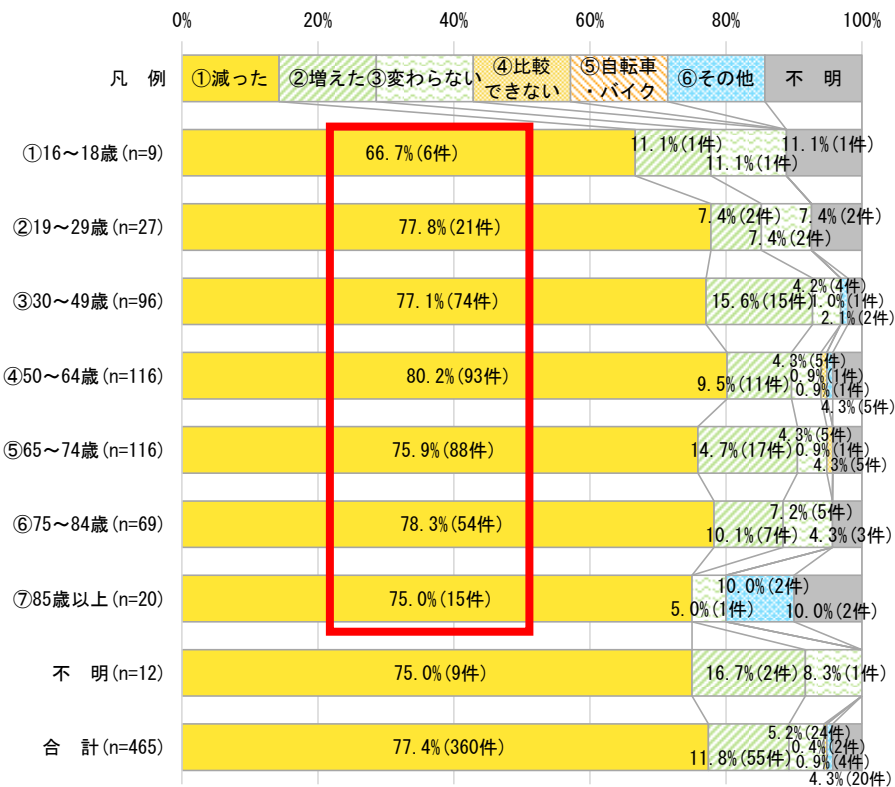


図 1-69 Q14-2.外出頻度・交通手段が変わったか (Q14-1.で利用頻度が減ったと回答した方が回答)

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、全年齢構成とも「①減った」が7、8割と最も多い。



Q14-1で「①外出が減った方」(n=465)についての回答

図 1-70 Q4.年齢×Q14-2.外出頻度・交通手段が変わったか

Q14-3. 公共交通利用促進策

新型コロナウイルス感染症の影響が収束した後に、公共交通利用を促進する方策としては、「②格安で利用できるようにすべき」という回答が 112 件と最も多く、続いて「①対策は必要ない」が 68 件、「③少人数による輸送」と続く。

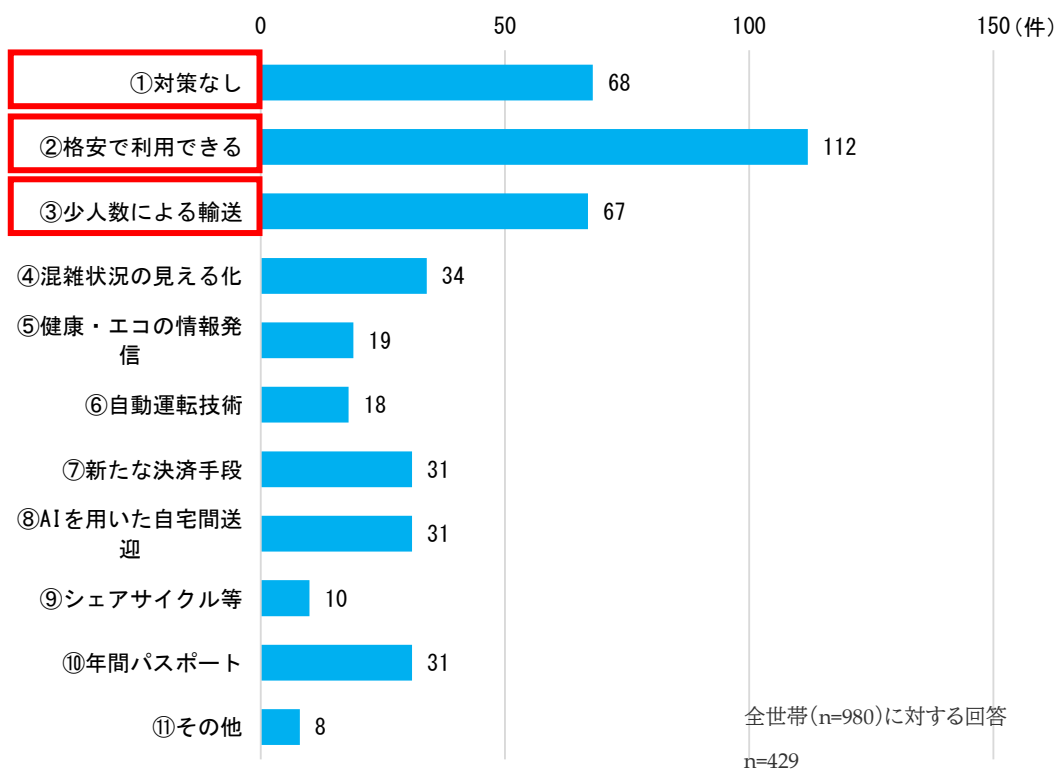


図 1-71 Q14-3.感染症収束後、公共交通利用を促進するための有効な方策

Q15. 留萌管内の公共交通について

Q15-1. 路線バスの利用(現在・今後)

管内の路線バスの現在と今後の利用について「現在利用していない方(③+④)」は 67.7%で、うち30.1%は「③今後は利用する」と答えている。また、「③現在利用していないが、今後は利用する」に「①現在利用していて今後も利用する」を加えて「今後利用する(①+③)」の回答割合を求めると、46.6%となる。

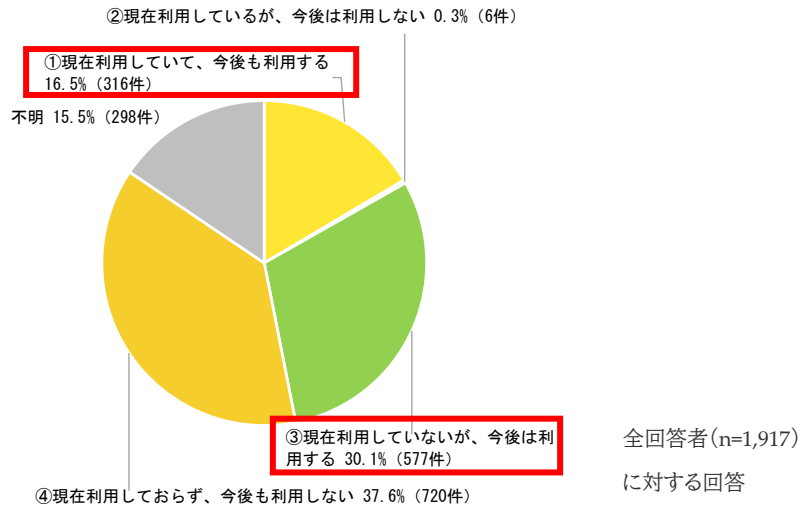


図 1-72 Q15-1.管内の路線バスの利用について

【年齢構成別】

年齢別に見ると、「①16～18 歳」においては「①現在利用していて、今後も利用する」が 51.1%、「⑤65～74 歳」と「⑥75～84 歳」においては「③現在利用していないが、今後は利用する」が最も多い。

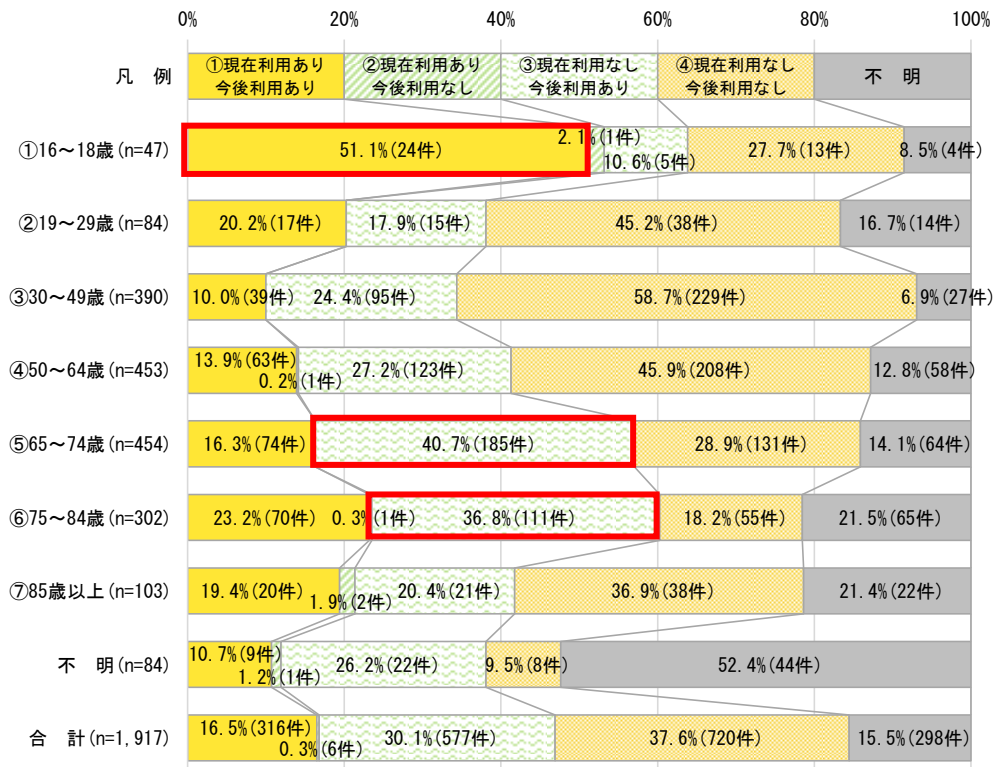


図 1-73 Q15-1.管内の路線バスの利用について(Q4.年齢構成別)

【居住地域別】

地域別に見ると、「③小平町(鬼鹿地区)」と「⑧初山別村」は「①現在利用していて、今後も利用する」が市町村の中で多く、「⑦羽幌町」と「⑧初山別村」は「③現在利用していないが、今後は利用する」が多い。

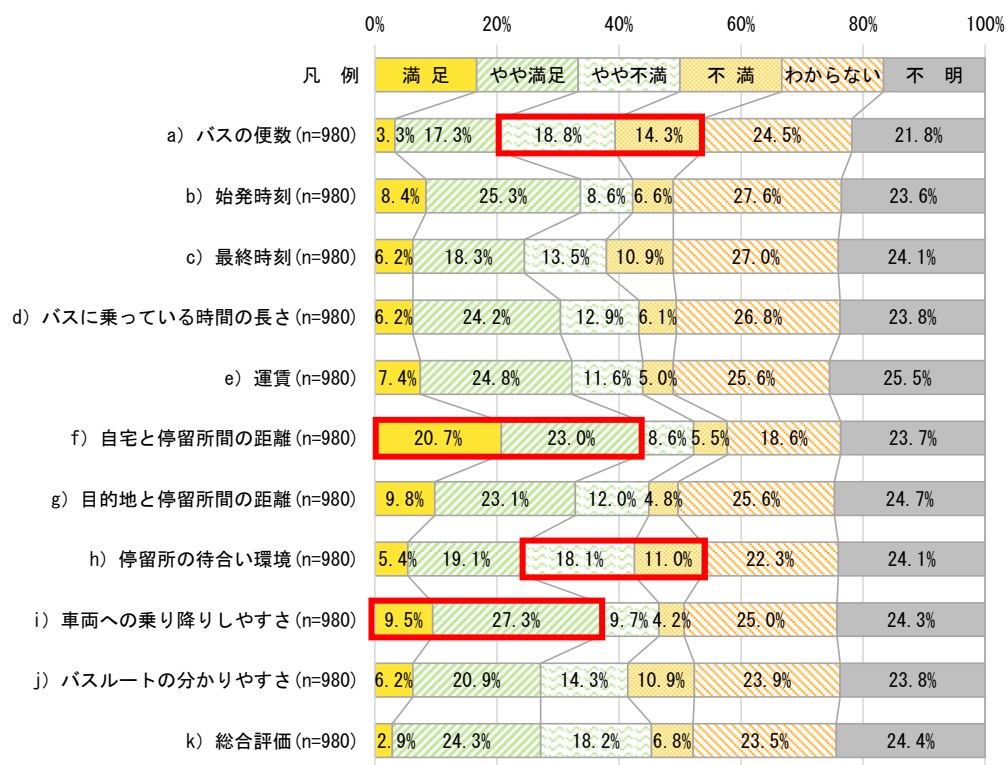


全回答者(n=1,917)に対する回答

図 1-74 Q1.居住地域×Q15-1.管内の路線バスの利用について

Q15-2. 路線バスの満足度

路線バスの満足度は、「f) 自宅とバス停の距離」、「i) 乗り降りのしやすさ」について、「満足・やや満足」が多く、「a) 便数」、「h) 待合の環境」について「不満・やや不満」が多い。

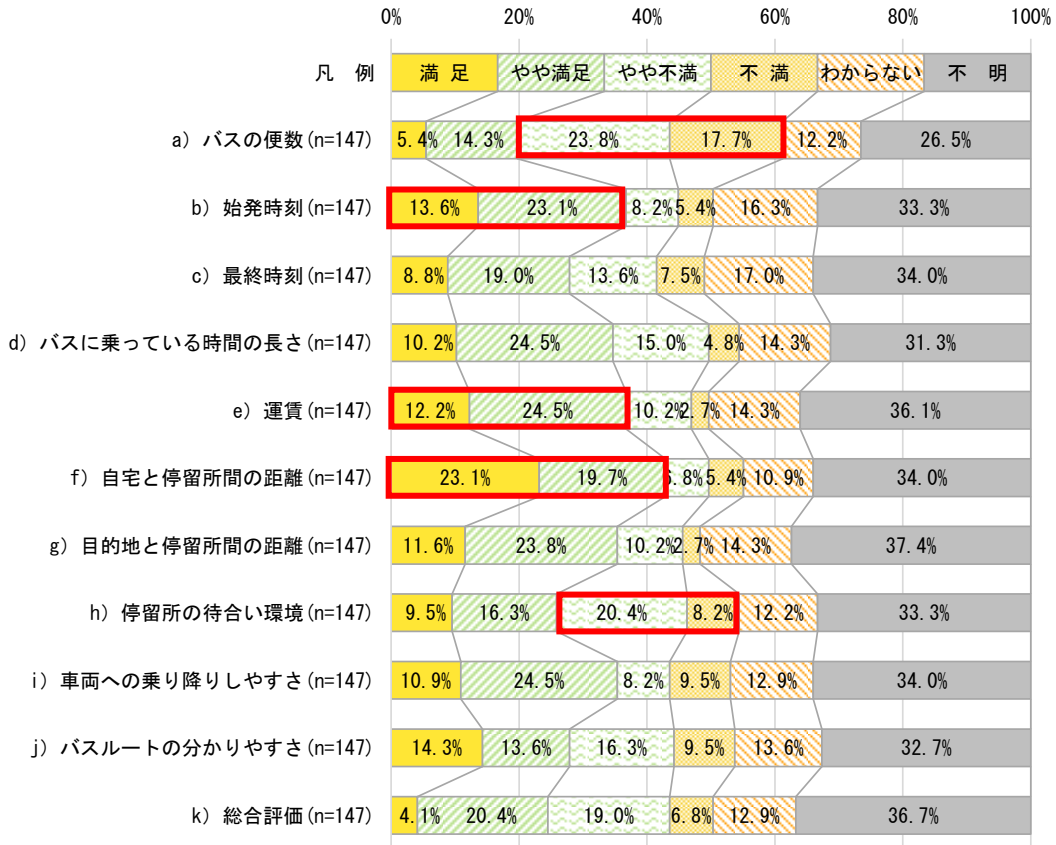


全世帯(n=980)に対する回答

図 1-75 Q15-2.路線バスの満足度

【普段運転できる車を持っていない方】Q15-2. 路線バスの満足度

普段運転できる車を持っていない世帯の路線バスの満足度は、「f) 自宅とバス停の距離」、「e) 運賃」、「b) 始発時刻」について、「満足・やや満足」が多く、「a) 便数」、「h) 待合の環境さ」について「不満・やや不満」が多い。



全世帯 (n=980) のうち、普段運転できる車を持っていない方がいない世帯 (n=147) に対する回答

図 1-76 Q15-2. 路線バスの満足度 (Q7. において、普段運転できる車を持っていない世帯)

Q15-3. デマンド交通の利用

電話で予約すると自宅まで来てくれたり、目的施設まで直接アクセスできる公共交通について、「②利用すると思う」が35.3%と最も多い。

「普段運転できる車をお持ちではない方」についても「②利用すると思う」は35.2%と全体と変わらない。

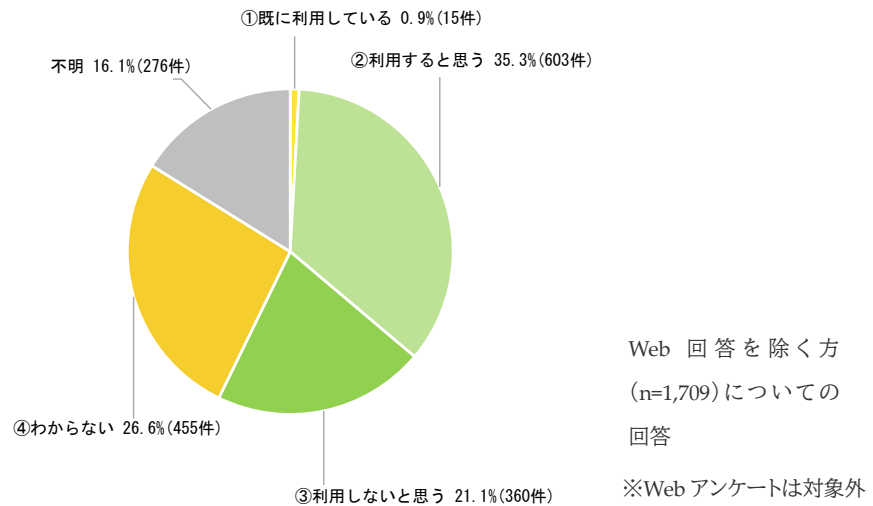


図 1-77 Q15-3. 電話予約のデマンド交通があれば利用するか

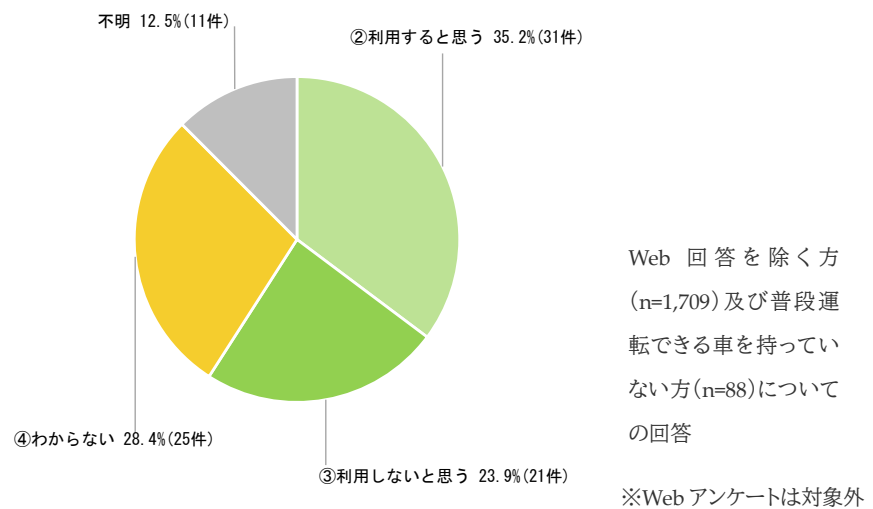
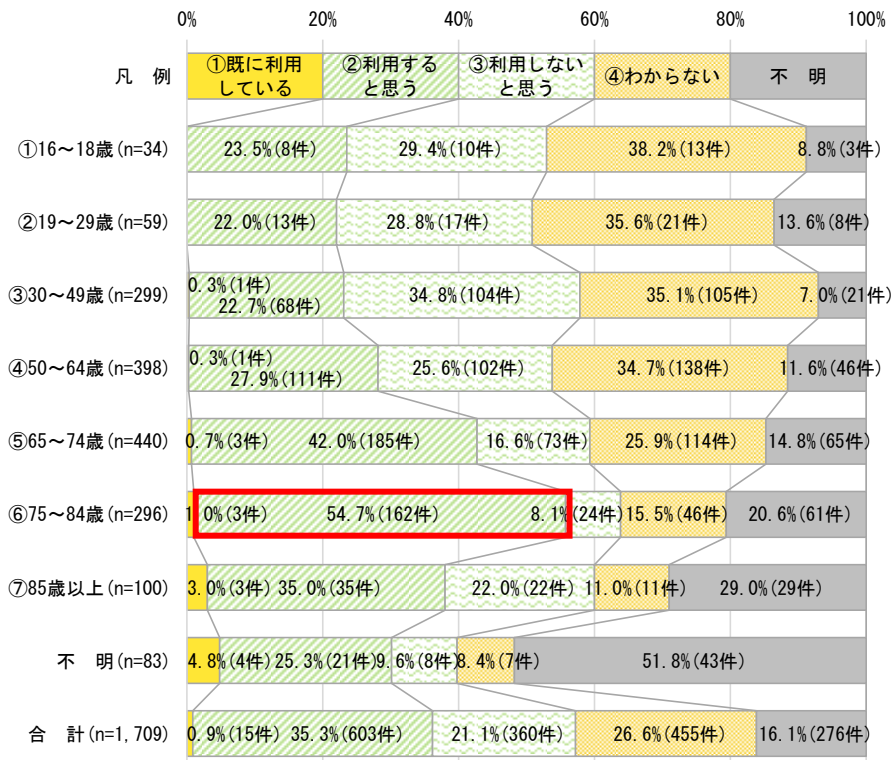


図 1-78 Q15-3. 電話予約のデマンド交通があれば利用するか

(Q7.において、普段運転できる車を持っていない方)

【年齢構成別】Q15-3. デマンド交通の利用

年齢構成別に見ると、「②利用すると思う」は「⑤50～64歳」から増加し、「⑥75～84歳」では54.7%となる。



Web 回答を除く方 (n=1,709) についての回答

※Web アンケートは対象外

図 1-79 Q15-3. 電話予約のデマンド交通があれば利用するか(Q4.年齢構成別)

【居住地域別】Q15-3. デマンド交通の利用

居住地域別に見ると、「②利用すると思う」は「⑩天塩町」が 43.3%と最も多く、続いて「②増毛町」が 42.9%となっている。



Web 回答を除く方(n=1,709)についての回答

※Web アンケートは対象外

図 1-80 Q15-3.電話予約のデマンド交通があれば利用するか(Q1.居住地域別)

Q15-4. デマンド交通の利用頻度

実際にデマンド交通を利用する際は、「③週に 1,2 日」が 39.3%と最も多く、続いて「④月に数回程度利用する」が 31.7%となっている。

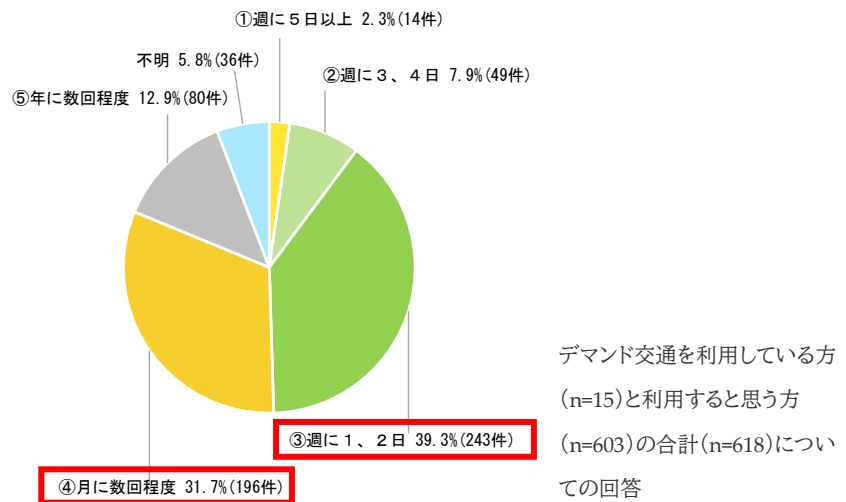
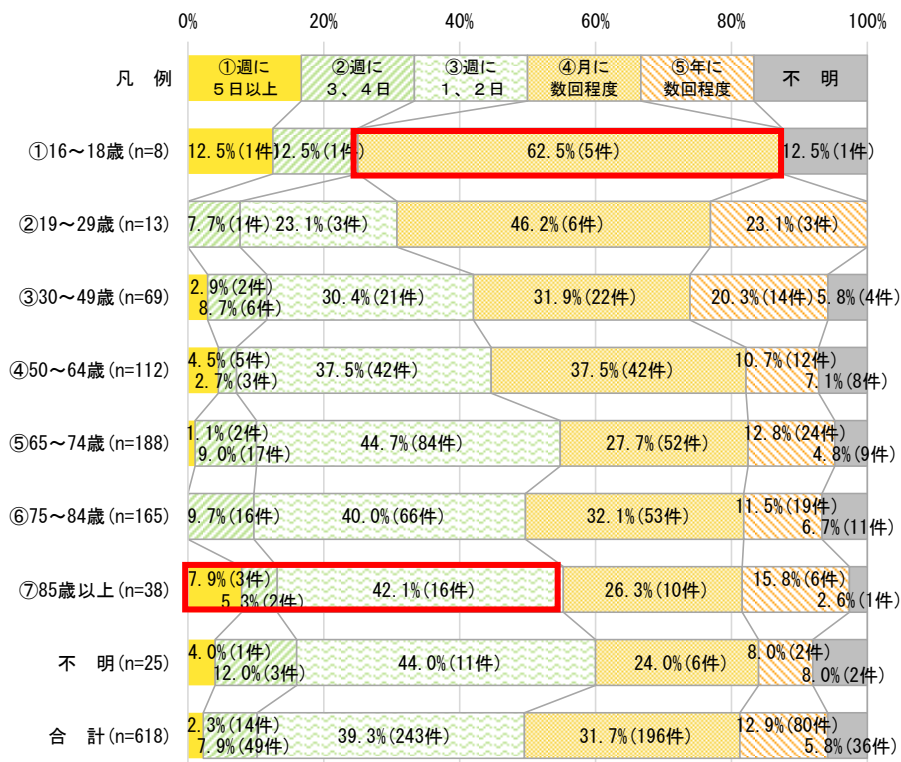


図 1-81 Q15-4.実際にどれくらいの頻度で利用しているか、する予定か (Q15-3.で既に利用している、利用すると思うと回答した方のみ回答)

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、「①16～18 歳」は「④月に数回程度」が 62.5%で利用頻度が低いが、「⑦85 歳以上」の「①週に 5 日以上」から「③週に 1, 2 日」の合計が 55.3%となっており、年齢が進むに従って利用頻度も増加する傾向にある。



デマンド交通を利用している方 (n=15) と利用すると思う方 (n=603) の合計 (n=618) についての回答

図 1-82 Q15-4.実際にどれくらいの頻度で利用しているか、する予定か (Q4.年齢構成別)

Q15-5. デマンド交通の料金(路線バスの上乗せ料金)

デマンド交通の路線バス料金の上乗せ料金は、「200 円」が 79.9%、「400 円」では 41.1%が「①利用する」としている。「600 円」では「①利用する」が 14.4%と、「600 円」以上では利用率が急減する。なお、「普段運転する車を持っていない方」についても同様の傾向である。

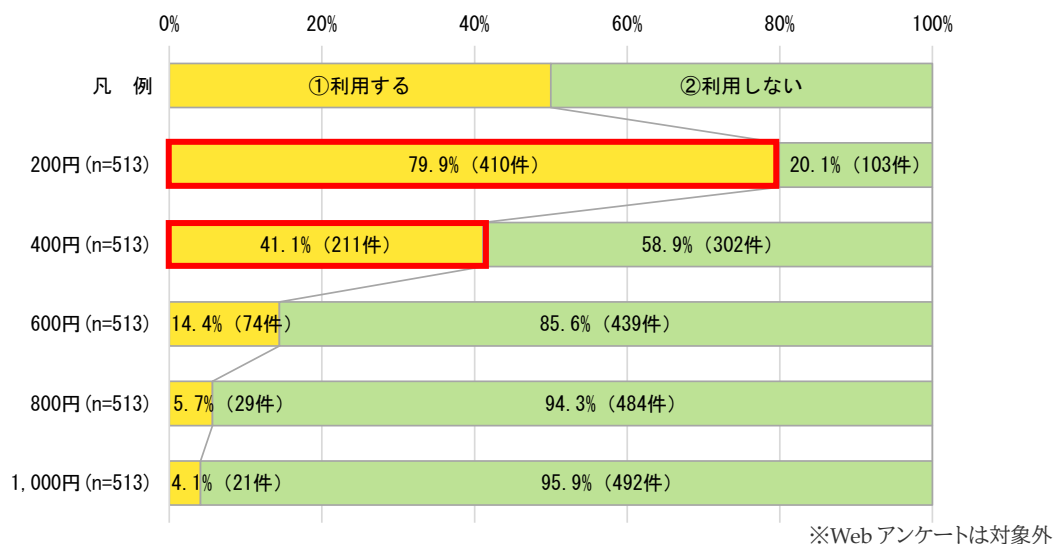


図 1-83 Q15-5.電話予約できる公共交通が路線バスと比べて〇円分高くなった場合、利用するか

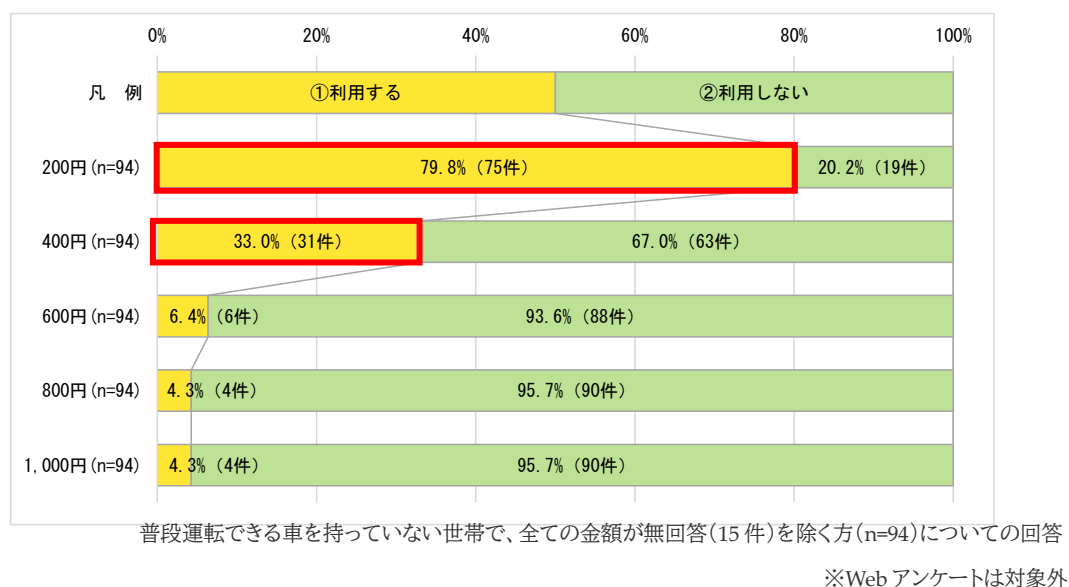
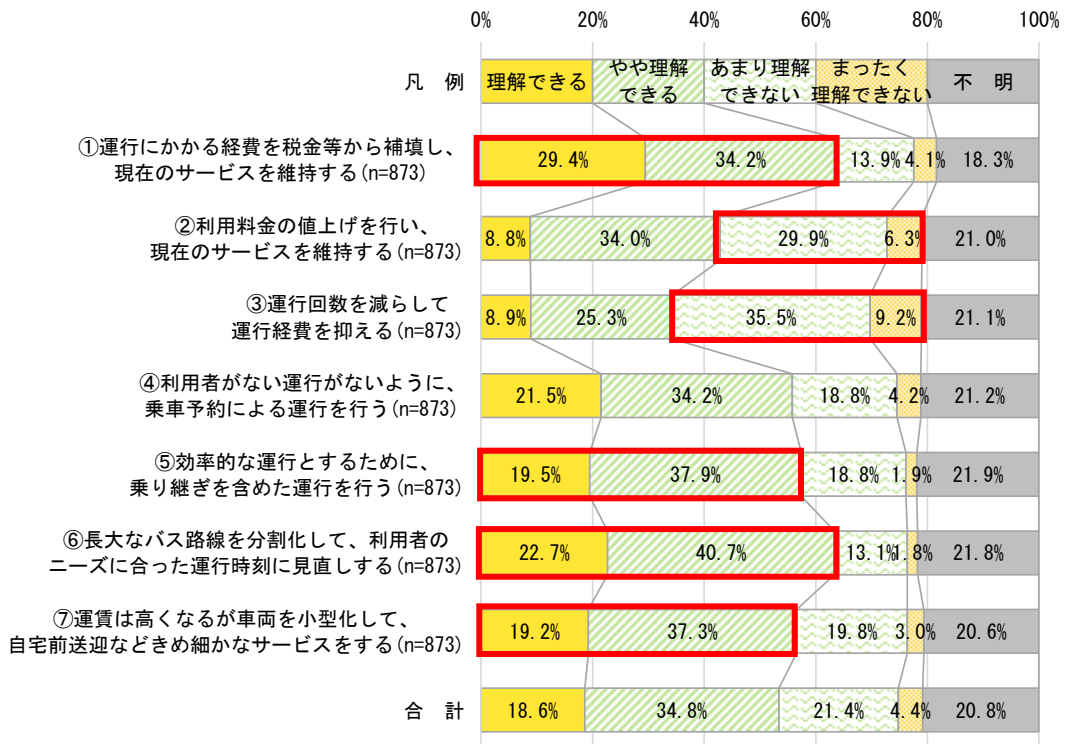


図 1-84 Q15-5. 電話予約できる公共交通が路線バスと比べて〇円分高くなった場合、利用するか (Q7.において、普段運転できる車を持っていない世帯)

Q15-6. 今後の公共交通を維持するための方針について

今後の公共交通を維持するための方針については、「理解できる」と「やや理解できる」の合計が多い回答項目は、「①経費を税金から補填し、現在のサービスを維持する」が 63.6%と最も多く、続いて「⑥長大路線を分割してニーズに合った運行時刻に見直しする」が 63.4%、「⑤乗継ぎを含めた運行を行う」が 57.4%、「⑦自宅前送迎などきめ細かなサービスをする」が 56.5%となっている。

一方で「まったく理解できない」と「あまり理解できない」の合計が多い回答項目は、「③運行回数を減らして経費を抑える」が 44.7%と最も多く、続いて「②利用料金を値上げして現在のサービスを維持する」が 36.2%となっている。



※Web アンケートは対象外

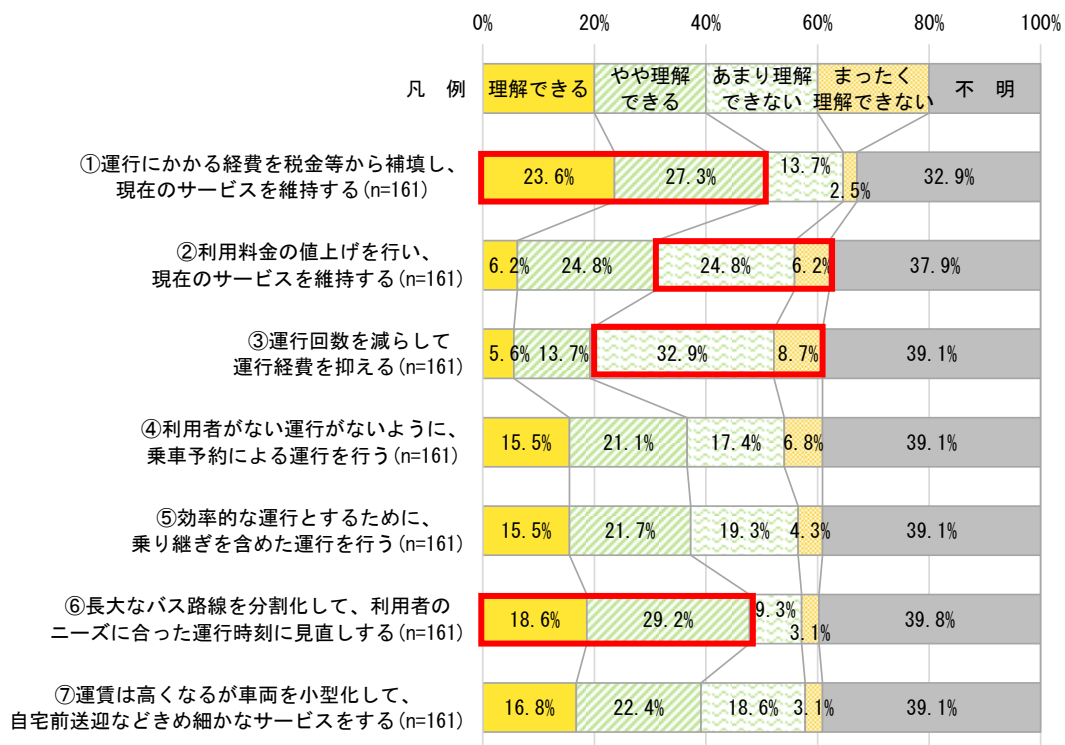
Web 回答を除く全世帯 (n=893) を対象とした回答

図 1-85 Q15-6.今後の公共交通を維持するための方針

【普段運転できる車を持っていない世帯】Q15-6. 今後の公共交通を維持するための方針

今後の公共交通を維持するための方針について、普段運転できる車を持っていない世帯を抽出したところ、「理解できる」と「やや理解できる」の合計が多い回答項目は「①経費から税金を補填し、現在のサービスを維持する」が 50.9%と最も多く、続いて「⑥長大路線を分割してニーズに合った運行時刻に見直しする」が 47.8%となっている。

一方で「まったく理解できない」と「あまり理解できない」の合計が多い回答項目は、「③運行回数を減らして経費を抑える」が 41.6%と最も多く、続いて「②利用料金を値上げして現在のサービスを維持する」が 31.0%となっている。



Web 回答を除く全世帯(n=893)のうち、普段運転できる車を持っている人がいない世帯(n=161)を対象とした回答

図 1-86 Q15-6.今後の公共交通を維持するための方針 (Q7.において、普段運転できる車を持っていない世帯)

Q16. その他のサービスについて

Q16-1. サブスク型のデマンド交通の利用

月 3,000 円、あるいは 6,000 円で自宅から施設までアクセスできる交通があった場合の利用について、「③利用しない」が 45.9%と最も多かった。

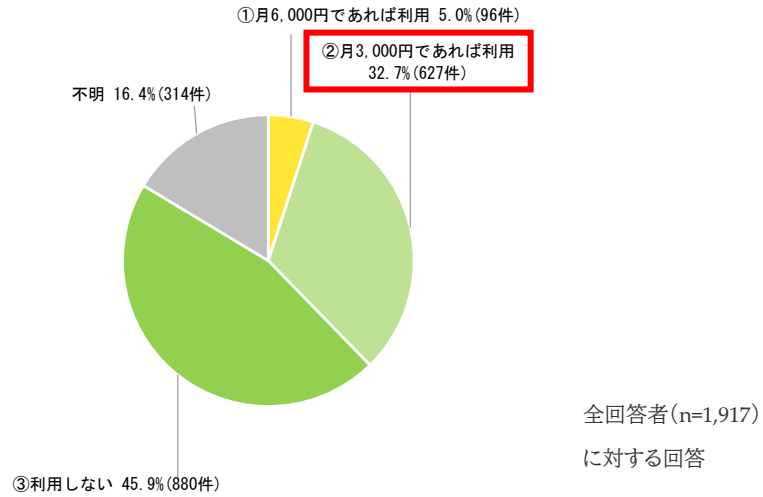
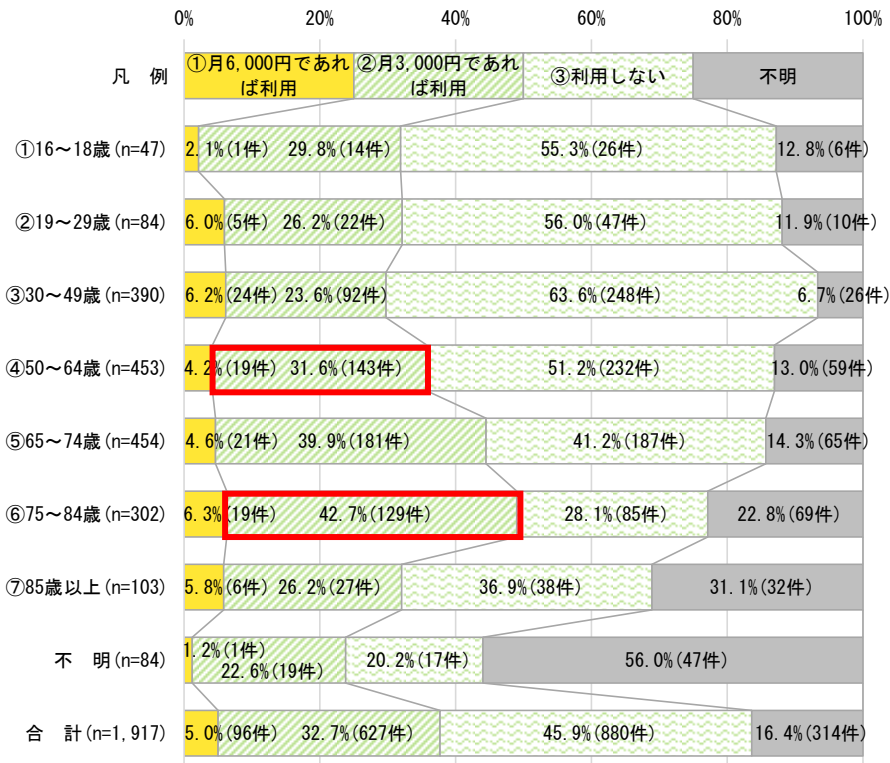


図 1-87 Q16-1.定額のデマンド交通は利用するか

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、「④50～64 歳」から「⑥75～84 歳」で年齢が進むに従って「②3,000 円であれば利用する」が多くなる。



全回答者 (n=1,917) に対する回答

図 1-88 Q16-1.定額のデマンド交通は利用するか(Q4.年齢構成別)

【居住地域別】Q16-1. サブスク型のデマンド交通の利用

地域別に見ると、「②増毛町」、「⑤苫前町(古丹別地区)」、「⑧初山別村」で「②3,000円であれば利用する」が4割と多い。

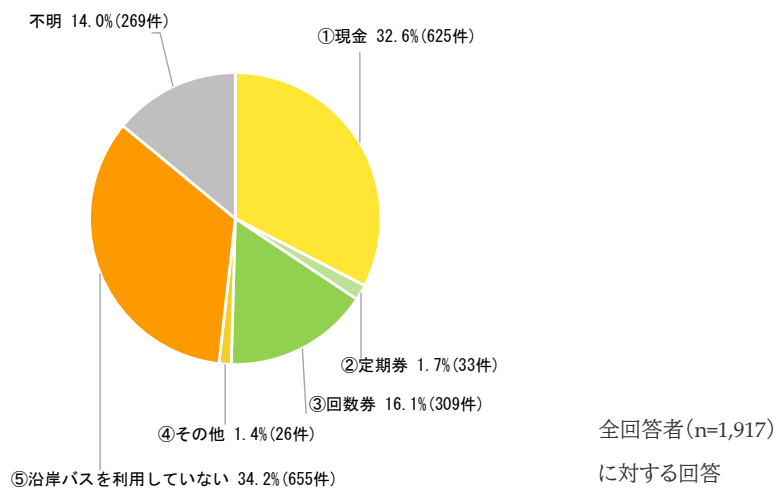


全回答者(n=1,917)に対する回答

図 1-89 Q16-1. 定額のデマンド交通は利用するか(Q1.居住地域別)

Q16-2. 沿岸バスの支払い方法

沿岸バス利用時は「①現金で支払い」が32.6%と多い。



全回答者(n=1,917)に対する回答

図 1-90 Q16-2.沿岸バス利用時の支払い方法

Q16-3. サブスク型の路線バスの利用

10 日程度の往復運賃で 1 か月利用できる路線バスがある場合、利用するかについて、「①利用する」と回答した割合は 25.7%となっている。

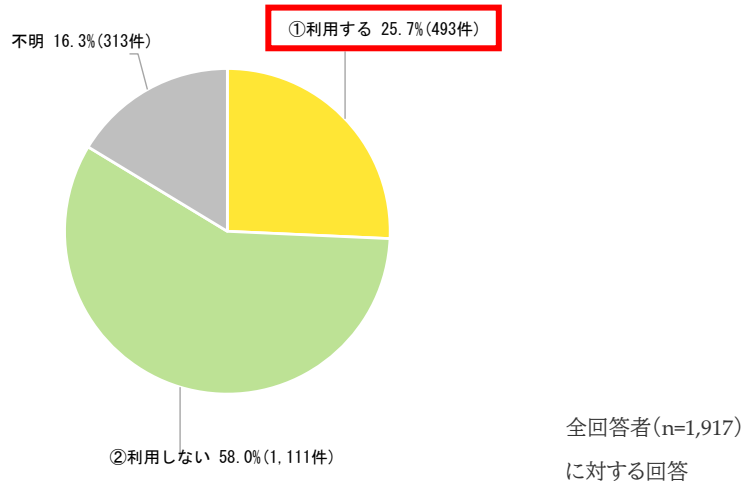


図 1-91 Q16-3.サブスク型の路線バスの利用

【年齢構成別】

年齢別に見ると「①16～18歳」は「①利用する」が 46.8%と他の年齢構成よりも高くなっている。

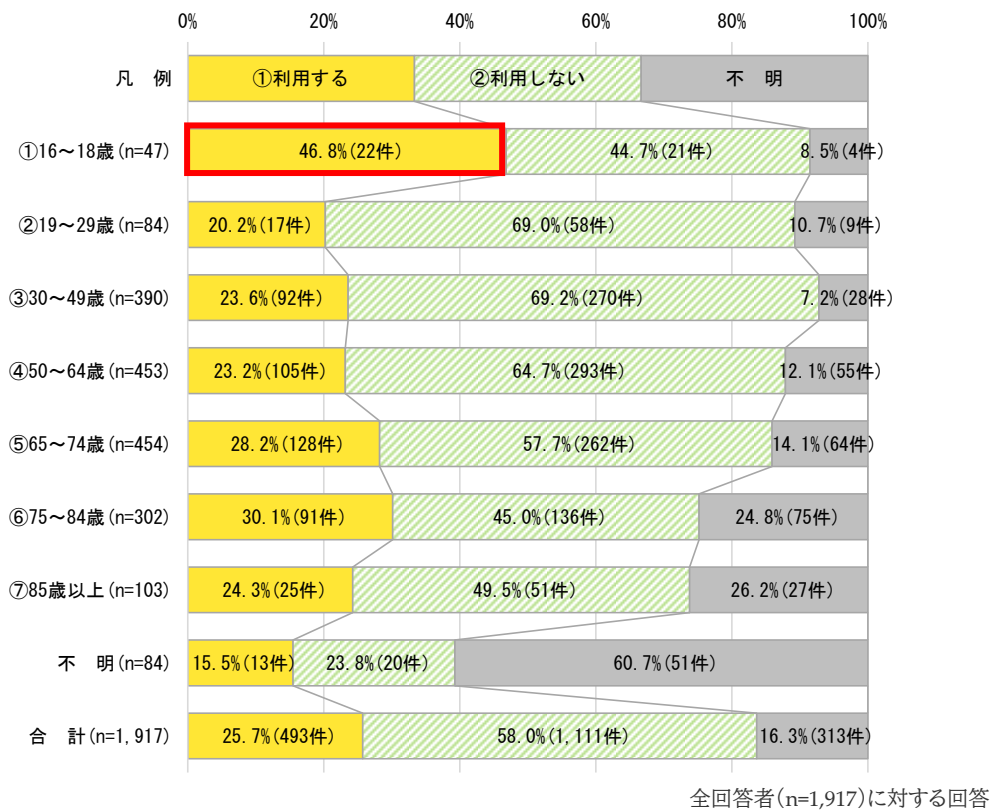
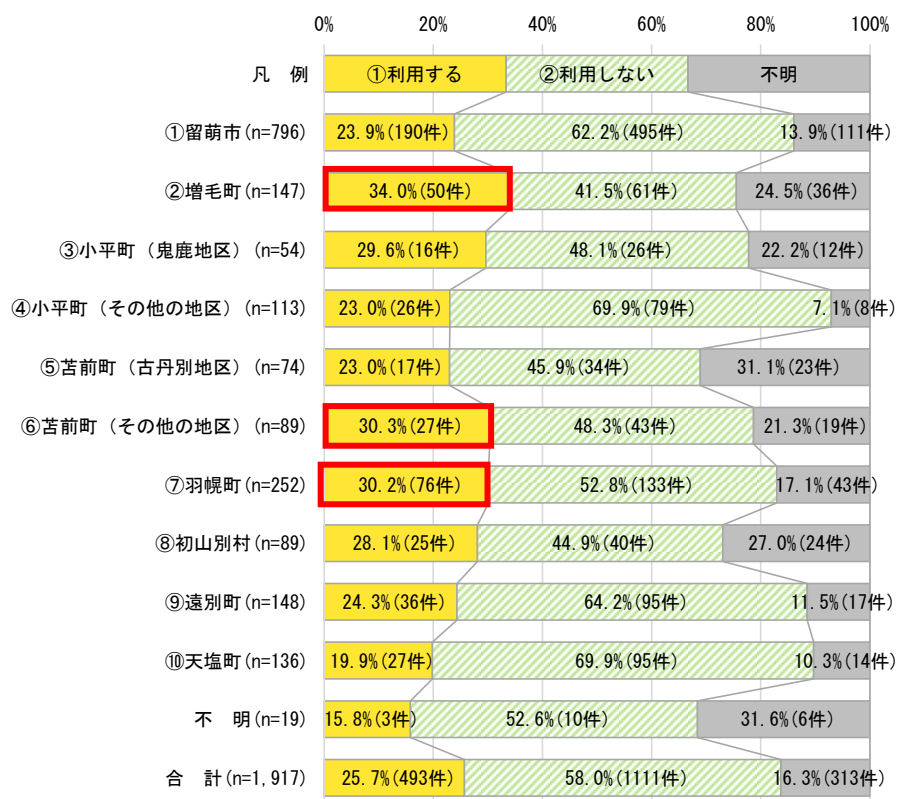


図 1-92 Q16-3.サブスク型の路線バスの利用(Q4.年齢構成別)

【居住地域別】Q16-3. サブスク型の路線バスの利用

地域別に見ると、「①利用する」は「②増毛町」、「⑥苫前町(その他の地区)」、「⑦羽幌町」で3割程度と他の市町村よりやや高い。



全回答者 (n=1,917) に対する回答

図 1-93 Q16-3. サブスク型の路線バスの利用(Q1.居住地域別)

Q16-4. 施設利用サービス付きのパーク&バスライドの利用

サービス利用で食事や施設利用が安くなる等のサービスがあったと仮定した場合、パーク&バスライドの利用については、「①利用する」が31.3%となっている。

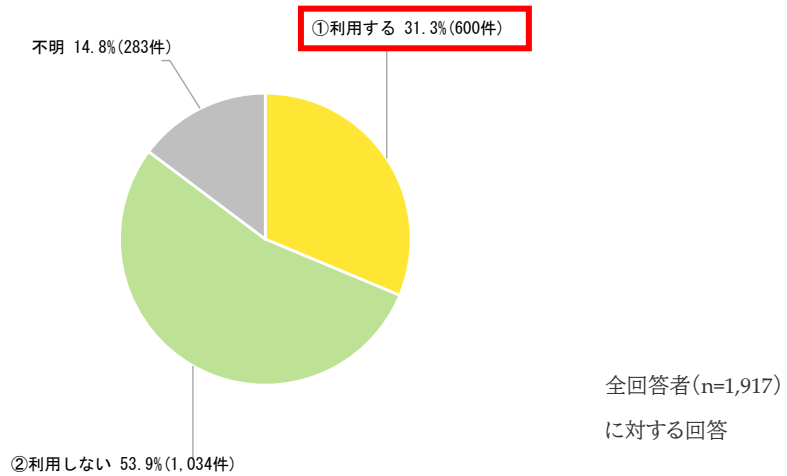


図 1-94 Q16-4. 施設利用サービス付きのパーク&バスライドの利用

【年齢構成別】

年齢構成別に見ると、「①利用する」は「②19～29歳」が38.1%、「③30～49歳」が34.4%、「⑤65～74歳」が34.6%となっているほか、他の年齢構成においても3割程度となっており、幅広い年齢構成において利用の可能性はある。

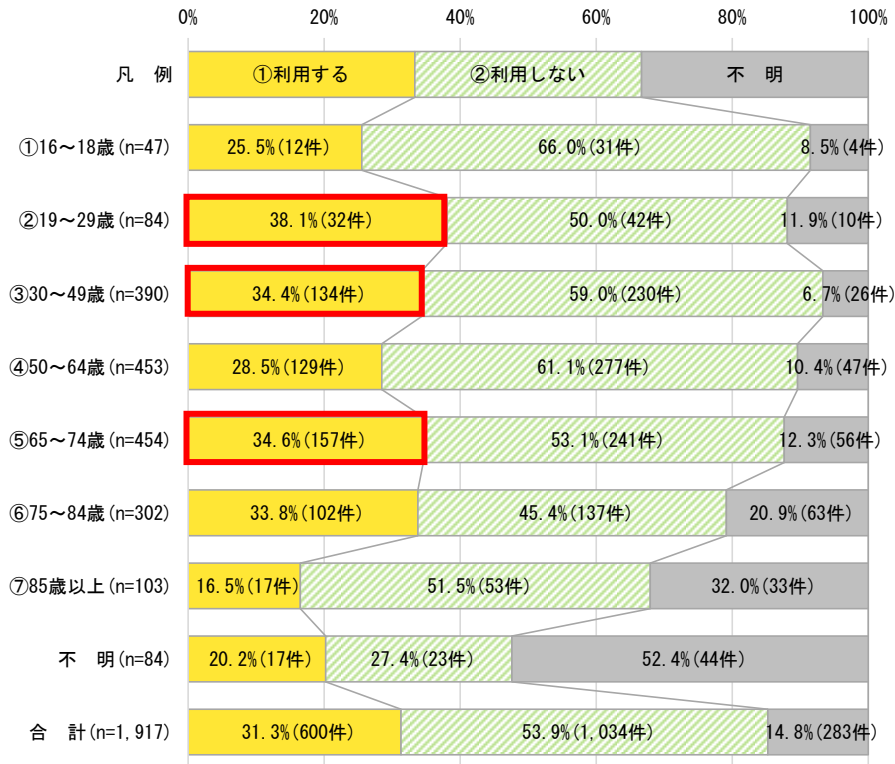
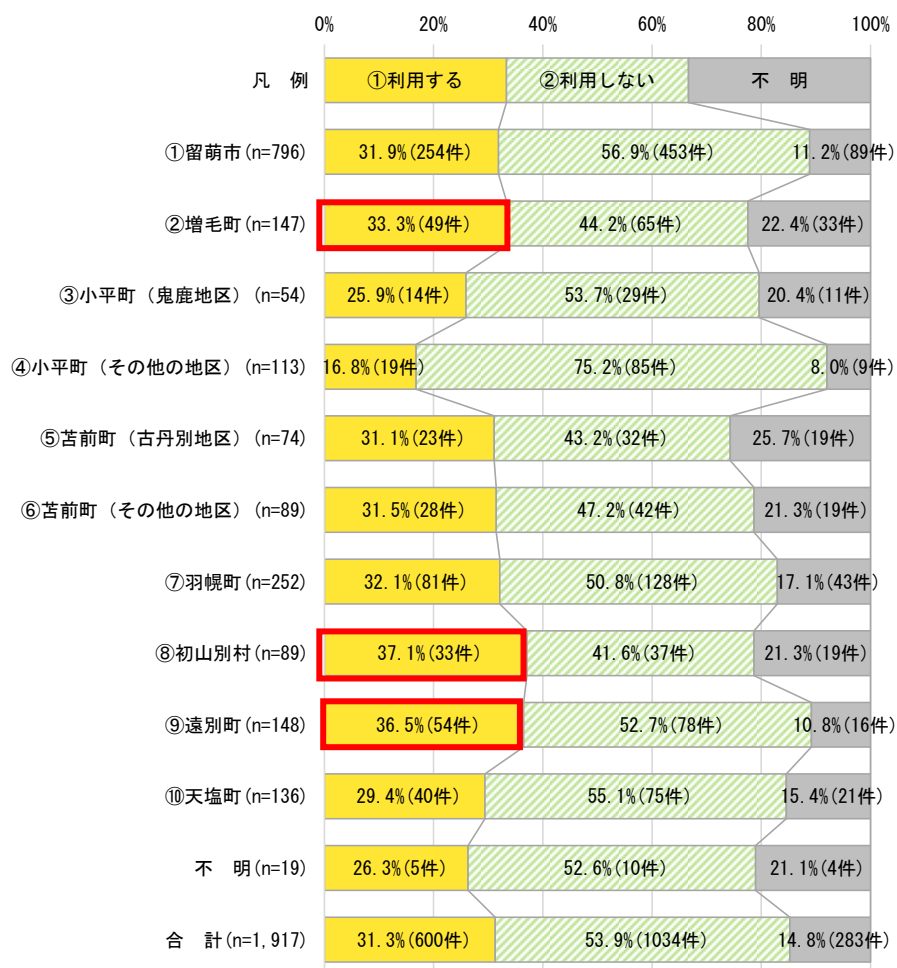


図 1-95 Q16-4. 施設利用サービス付きのパーク&バスライドの利用(Q4.年齢構成別)

【居住地域別】Q16-4. 施設利用サービス付きのパーク&バスライドの利用

居住地域別に見ると、「①利用する」は「⑧初山別村」が 37.1%、「⑨遠別町」が 36.5%、「②増毛町」が 33.3% になっているほか、他の市町村においても概ね3割前後が「①利用する」となっている。



全回答者 (n=1,917) に対する回答

図 1-96 Q16-4. 施設利用サービス付きのパーク&バスライドの利用(Q1.居住地域別)

Q16-5. バス運転手としての就業支援策

これから就職や転職を考えている方がいる世帯を対象に、バス会社に就業する上で期待する支援策について回答を得たところ、「①大型二種免許取得補助」が140件と最も多く、続いて「③短時間勤務など勤務体系の運用」が88件となっている。

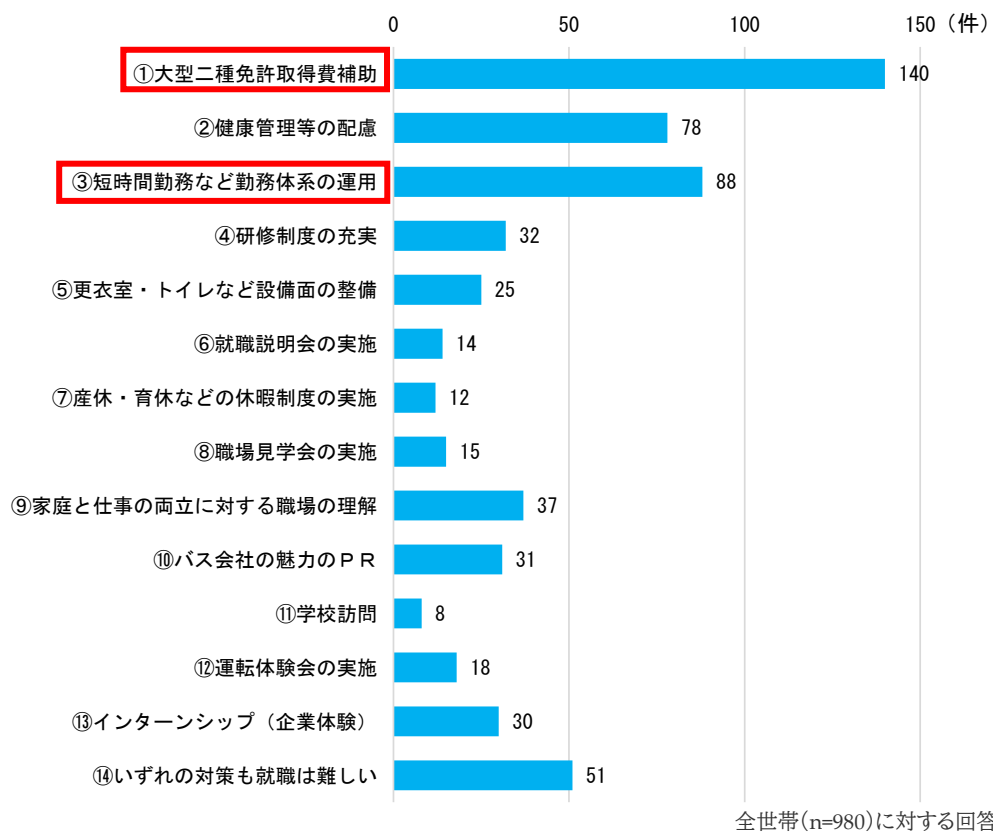


図 1-97 Q16-5. バス運転手としての就業支援策

Q16-6. バスなど公共交通にあると便利なサービス

公共交通にあると便利なサービスとしては、「②乗継ぎのしやすさ」が 379 件と最も多く、続いて「⑥休憩待合室」が 321 件、「①割引サービス」が 291 件となっている。

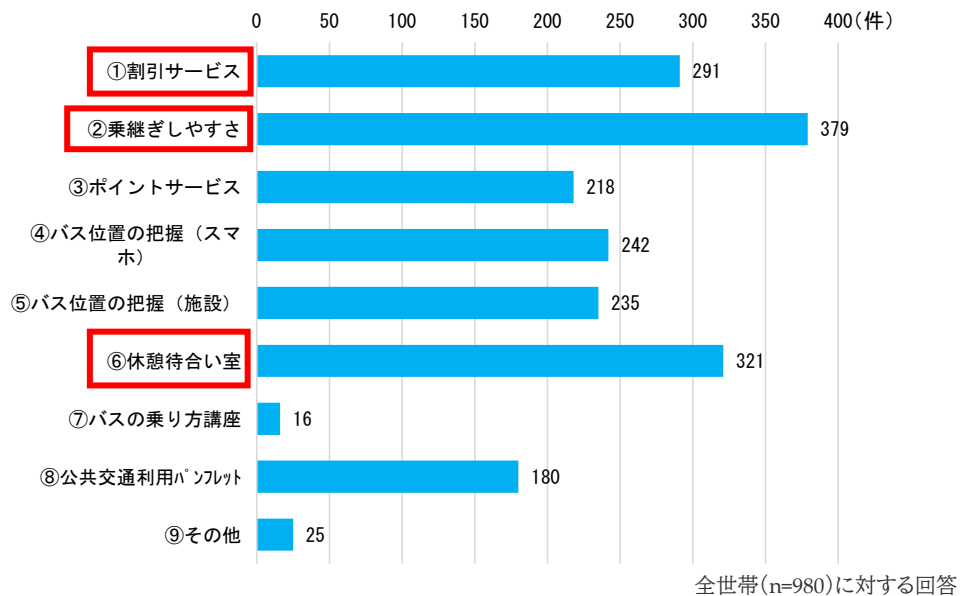
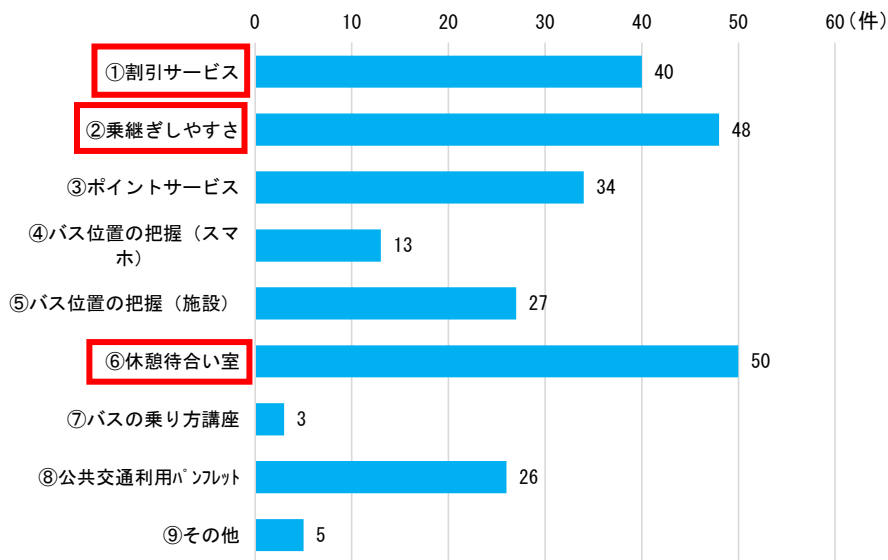


図 1-98 Q16-6.公共交通にあると便利なサービス

【普段運転できる車を持っていない世帯】

普段運転できる車を持っていない世帯の公共交通にあると便利なサービスとしては、「⑥休憩待合室」が 50 件と最も多く、「②乗り継ぎのしやすさ」が 48 件続いて、「①割引サービス」が 48 件となっている。



全世帯(n=980)のうち、普段運転できる車を持っている人がいない世帯(n=147)に対する回答

図 1-99 Q15-6.今後の公共交通を維持するための方針 (Q7.において、普段運転できる車を持っていない世帯)

4) その他、公共交通についての意見

- ・始発を早め最終便を遅くする(11件):B
- ・バスの小型化(10件):A
- ・バス車両のバリアフリー化(9件):A
- ・冬期間の安定運行(7件):B
- ・増便(7件)
- ・デマンド運行(6件):D
- ・バス停留所を細かく配置(5件):A
- ・バス待ち環境の改善(4件):A
- ・運賃を低額化(4件):E
- ・留萌駅での乗り継ぎへの配慮(4件):C
- ・交通弱者対策(3件)
- ・公共交通の利便性の向上(3件)
- ・行きと帰りの時間が空きすぎ、短すぎ(3件):B
- ・JR 留萌線廃線への対策(3件)
- ・フェリーから路線バスへ乗り継ぎ(3件):C
- ・スマホ等でバス位置を把握(2件)
- ・雪で運休する場合のバス停留所への掲示(2件)
- ・バスの予約運行(2件):D
- ・Web での乗車予約(2件):D
- ・路線バスの定時性確保(2件)
- ・稚内までの直通便の運行(2件):C
- ・先端技術:AI、ドローン、ICカードの導入(2件)
- ・タクシーを利用しやすくする(2件)
- ・バス運転手の乗客への話し方の改善(2件)
- ・自動運転など新技術の導入(2件)
- ・旭川・札幌間の利便性向上(2件):C
- ・特急ましけ号の運行維持(2件)
- ・乗車マナーの向上(2件)
- ・路線バスに日中、乗っている人を見たことがない(2件)
- ・その他(34件):F
 - ▶地域生活者が利用しやすいフレキシブルなバス運行
 - ▶市町村の財政負担が大きすぎる
 - ▶時間短縮のため利用が少ないバス停は不要
 - ▶バス路線図・時刻表の配付 等

自由回答として公共交通について意見を求めたところ、回答総数 980 件のうち 144 件の回答が得られた。

回答内容は多岐に渡るが、「A. バス車両やバス停に関する意見(28件)」、「B. ダイヤや運行に関する意見(21件)」、「C. 路線や乗継に関する意見(11件)」、「D. 乗車方法や予約に関する意見(10件)」、「E. 運賃に関する意見(4件)」、「F. その他の意見(34件)」があった。

意見数による定量的な分析は自由回答のため難しいものの、ダイヤ、バス車両及びバス停に対する意見が多数となり、これらに対する関心の高さを伺わせた。